

1) 金属管による配管と支持方法

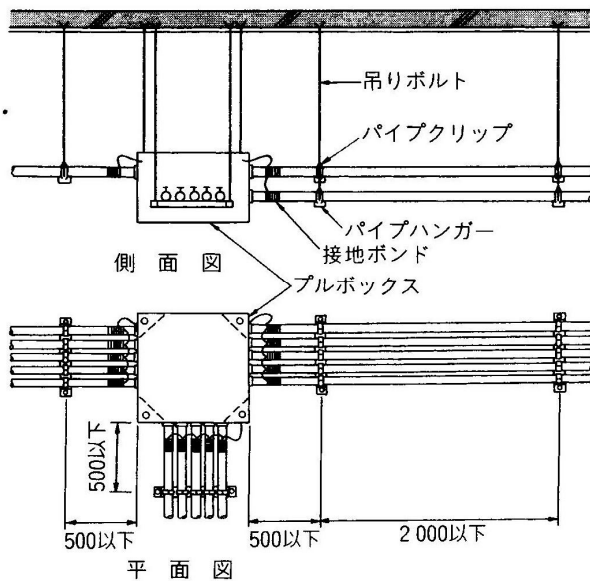
露出場所および点検できる隠ぺい場所（二重天井内）に施設できる。受変電室の配電盤より、機械室の動力制御盤および分電盤などへの電源の配管・配線である。配管の支持方法には、水平支持と垂直支持がある。

a. 水平支持

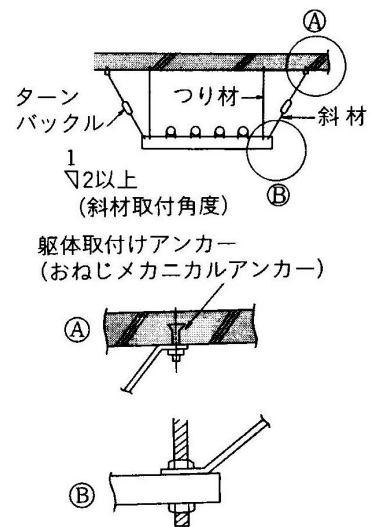
スラットに吊りボルトを取り付けられたインサート、またはホールインアンカー（鋼など）を取り付け、平行配管し、パイプクリップで固定する。支持間隔は 2m 以内とし、プルボックスよりの支持間隔は 1m 以内とする。吊りボルトの下端の長さは、ボックス内および吊りボルトの長さとする。

b. 垂直支持

シャフト内または天井裏に下り配管を行う場合に用いる方法で、壁にブラケットまたは支持金物（軽量形鋼など）を、アンカーボルトなどで取り付け、パイプクリップなどで管を支持固定する方法である。（第 3 図参照）



第 1 図 水平支持



第 2 図 耐震支持

2) 電線の支持

a. 水平配管

水平配管の長さが 1m 以上素通しの場合、または電線の太物のジョイント部分に電線受けを設ける。電線受けは直角または対角線状に設ける。

b. 垂直配管

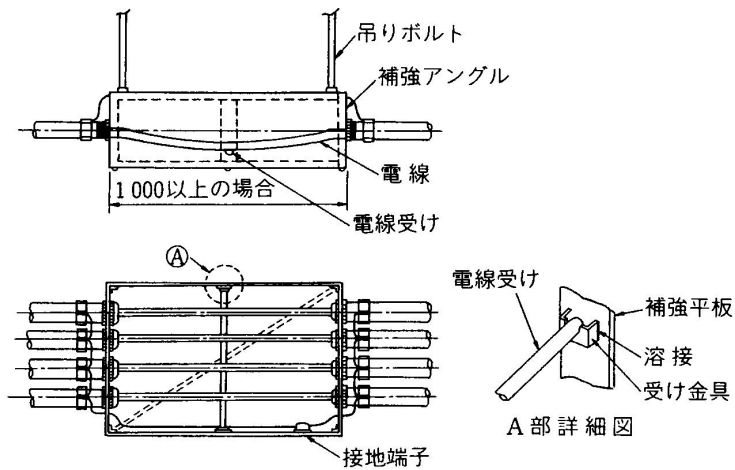
シャフト内または天井裏に下り配管を行う場合、金属管内の電線は、プルボックスごとに支持を行う。支持方法の一例を第 4 図に示す。

(1) プルボックスに電線受を設け、木綿ひも、化学繊維ひもおよびナイロンバンドなどで結束支持をする。

(2) 電線管の管端内側に、電線サイズに合せ木栓(くさび)を打込み支持をする。

(3) 電線に垂直支持用ゴム板を巻付け、管端にはめ込み支持をする。

垂直配管内の支持については、内線規程 3110 - 14 で、具体的な支持例および電線の太さと支持点間の間隔について規定されている。(第1表参照)



第1表 電線の太さと支持点間の間隔

電線の太さ (mm <sup>2</sup> )	支持点の間隔 (m)
38 以下	30
100 "	25
150 "	20
250 "	15
250 超過	12

第4図 電線受け